

# 関西学院同窓会 大阪支部

## INTERVIEW

<http://www.kwangaku-osaka.org>

2014.12

編集室長対談

FILE

No.01

### ミラノ万博、イタリアと大阪、そして関西学院

日本・大阪との出会い——  
デジャヴュとシンパティ

小島 幸徳編集室長（以下小島） はじめまして。本日はよろしくお願ひします。早速ですが、総領事として大阪に赴任される前から日本ではお仕事を？

マルコ・ロンバルディ総領事（以下ロンバルディ） 最初は2002年ですね。東京の大使館に赴任しました。その時にとても不思議な経験をしたことを今でも覚えています。それまで日本は遠い国だと考えていたのですが、いざ赴任してみるとデジャヴュの連続だったんです。

小島 デジャヴュって何ですか？

ロンバルディ アニメですね。私が幼いころ、イタリアのテレビで放送していたアニメはすべてと言って良いほど日本のものだったんですよ。そこで見

た光景に次々と出会う——。本当に不思議な経験でした。おかげで日本に来てから知り合いになった多くの人は、アニメの話をして、それを通して親しくなりました。100も200ものアニメに関する話題を共有したように思います。

小島 そんなに沢山？ちなみにイタリアではどんなアニメを、覚えられたのですか？

ロンバルディ 「ルパン三世」は人気があって、今でも放送をしていますよ。私の子供のころ、もっとも大好きだったのは「マジンガーZ」でした（笑）。

小島 それはいろいろな方と話が弾みそうですね（笑）。それで、大使館の後はそのまま大阪へ？

ロンバルディ いや、その後はアイルランドのダブリン、ローマ、そして大阪ですね。

小島 大阪に赴任する……どんな気分でしたでしょうか？



在大阪イタリア総領事  
マルコ・ロンバルディ氏

ロンバルディ 東京にいたころから何度か大阪には来ました。その度に「美しい」「近代的」「快適な街」と実感していたので、楽しみでしたよ。

小島 実際に来られて印象は変わりましたか？

ロンバルディ そうですね……新しい発見がありましたよ。「シンパティア」……説明しにくいのですが、大まかに言えば「あたたかくて感じが良い」というイタリア語なんです。大阪人にはそういったものを感じたんです。まるで……陽気な南イタリアの人情のような。つまり大阪人はイタリア人に似ていると大きな発見でした。

小島 あ、それは多くの日本人も同じように感じているようですよ。その発見は我々の方が先だったようですね（笑）。

### 大阪の国際発信力

#### 食を軸にした文化的相互理解

小島 大阪のことについても少し。都市の将来を考えた場合、経済や文化……といった要素が国際発信力を持つと感じておられますか？

ロンバルディ イタリアの都市と比較した場合、大阪はミラノに匹敵すると思います。まずはビジネスの中心であること、そして国際的な企業が集まっていること。パナソニックをはじめ、イタリア人の生活に溶け込んでいる製品を生み出す会社は、ここには集まっていますからね。このように経済に関してはすでに世界中が認識している点だと言えるでしょう。文化面でもまだまだ可能性が秘められていると思います。

小島 例えは文楽とかでしょうか？

ロンバルディ そうですね。文楽は特に興味深いものだと思いますが……実はイタリアではまたその魅力も、またそれが大阪生まれの文化だということもよく知られていません。シチリアに同じように人形を使う伝統文化が残っています。文楽を相手の国のよく似たものに投影しながら広めてゆく……という

手もあるのではない  
かと思っています。

**小島** イタリアは観光という点では、世界一のレベルを誇っていると思いますが：果たして大阪はそういった点でどのように見えるのでしょうか。関西には京都があり、それに比べると観光という面で大阪は後れを取っているような気がしますが：

**ロンバルディ** そんなことはありません。京都に負け劣らずの知名度をこの都市は誇っていると言っているでしょう。イタリアでは東京、大阪、京都の名前はよく人々の話題にありますが、例えばミラノに大変人気の高い日本食レストランがあるので、その名前が「大阪」。私はそのラーメンが大好きでしたよ。

**小島** ということは：やはり大阪と言えば「食」ですか？

**ロンバルディ** その通りですね。8月にRAIというテレビ放送局が大阪の食文化を紹介してましたよ。この番組はアジアのいろんな都市を巡るシリーズで、シンガポールから始まり、最終回が大阪。日本では大阪のみが取り上げられていました。

**小島** どんな料理が取り上げられていたのでしょうか？やはり「タコヤキ」といった今流行りの「B級グルメ」でしょうか？

**ロンバルディ** もちろん私も「タコヤキ」は好きですよ。でもイタリアではそれほど有名ではないし、あまり興味も持っていないかもしれません。それよりも番組でもそうですが、イタリア人が興味を持っている点は、大阪が美味しいものの豊富な、恵まれたロケーションにあるということですね。神戸の牛肉、瀬戸内海の魚、そして九州をぶくめた周辺各地の野菜：そういったクオリティーの高い食材が豊富に



あるからこそ、「天下の台所」とあだ名されていたのだと、こういった認識が、そこで育まれる人情や文化への興味につながっていくのでしょうか。

**「ミラノ万博のテーマは「食」  
新たな世界への大きな一歩**

**小島** 「食」と言えば、来年開催されるミラノ万博のテーマが「食」でしたね。ミラノと言えば我々日本人にとってはファッションの一大拠点というイメージが強いのですが、どうしてテーマが「食」なのでしょう？

**ロンバルディ** もちろんミラノはファッションの街です。でも同時に食べ物のおいしい都市でもあります。ここを舞台に過去のいかなる食に関するイベントよりも規模の大きなものを開催しようとしている：それが今回の万博です。舞台は、ミラノですが、テーマを「食」としてイタリア文化すべてを俯瞰したものにしたとされています。食を通じた理解：例えばそれは日本との相互理解の上でも、大きな役割を果たすことになるでしょう。

**小島** 日本との食文化における共通点：具体的にどこにあったところにあると？

**ロンバルディ** 地図上では日本とイタリアは10時

間以上のフライトを要するほど遠いですが、でもイタリア文化の中での食と、日本文化の中での食、その位置づけには大変よく似たところがあるように思います。まずどちらの国も歴史的に農業を重視してきたという点。さらに、食卓の果たす役割：例えば、友人とより親交を深めようという時、イタリアでは家族などいっしょに「美味しいものを食べよう！」ということになります。それに対して他の国では、「お酒を飲もう」という国もある。家族に關しても「一日一回は家族全員で食卓を囲む」ことが大事だとイタリア人は感じています。これは日本の食事に關する発想・感覚と大変よく似ていると思うのです。

**小島** 総領事の日本滞在における大きな発見ですね。私も初めて「なるほど」と意識しました。そういった「食」を通じた理解：日本だけでなく各国にも当てはまるいろんな要素があると思えますが、トータルとして今回の万博の目指すところは、何なのでしょう？

**ロンバルディ** 一つ目はイタリア全土の魅力により広く世界に発信してゆく絶好の機会であるということ。そのためにミラノだけではなく、万博開催期間中にイタリア各地で様々なイベントを企画しています。

**小島** でも、実際にミラノ博に我々が足を向けたとして、短期間にイタリア全土を楽しむことは物理的に可能なんのでしょうか？

**ロンバルディ** 最近では高速鉄道が充実しています。ミラノからだと30分でトリノ、45分でヴェニス、2時間でフィレンツェ、ボローニャ、3時間でローマ、4時間でナポリ：色々な都市に手軽に行けます。全世界の人々がイタリア全土を回る：そんな

な機会になればと考えています。まあこれは経済的・観光的な視点から見た今回の目的ですね。もう一つは「栄養」について考え、話し合う機会にすることを。

**小島** 「栄養」とは？

**ロンバルディ** 食事は「人に栄養をあたえる」という行為です。そしてそれを世界規模で考えるべき、「すべての人に必要な栄養がいきたる」ということが理想だと言えるでしょう。地球環境や将来の在り方を考えるうえで、この視点はとても重要だと思います。大きなイベントでよくありがちな、何かぼんやりとした大きなテーマを掲げて考える：というスタイルではなく、日々の生活の中での行為、とても身近な観点から世界とその将来を考えるというところに、この万博の最大の意義があるのだと思います。それをまとめてみれば「地球に食料を、生命にエネルギーを」という概念になるのではないかと。

**小島** それを世界規模で話し合う場を目指すのですか？

**ロンバルディ** まさに。イタリアの各都市には広場があります。広場は町の中心にあつて、そこに人々が集まり、異常なおしゃべりを楽しんだり、意見の交換をしたりしてきた：そんな伝統があります。今回の万博ではミラノが世界にとっての大きな広



場」になればと。そこに世界中の人が集まって、万博のテーマである「地球に食料を、生命にエネルギーを」について考え、語り合い、知識を共有する。そういった機会になればと思っています。つまりは：今回ミラノに課された非常に重要な役割。それはイタリアだけでなく、地球規模で「食」と「持続・再生可能なエネルギー」に関して考え、話し合うこと。そして、その結果が地球の将来にどれほど貢献できるのか。どれほど大きな次の一歩となりうるのか。その成果が問われているということでしょう。

**小島** 5月〜10月という開催時期に関して、特別な意図があるのでしょうか？

**ロンバルディ** 私の記憶が正しければ、過去の万博もこの時期に開催されていると思います。ただイタリアにとってラッキーだったことは、この期間のイタリアはとても美しいということ。5月〜6月は春。日も長く、夜9時や10時まで明るい。続くイタリアの夏は暑くても地中海に面しているおかげで、とてもドライで快適です。イタリア人はこの時期のことを「自然から接吻を受ける」と表現するのです。

**小島** 魅力的な時期ですね。日本からも多くの人がその「接吻」を体験しに行くことが出来れば素敵ですね。さきほどの「広場」の構想を含め、詩的ですがイタリアの万博だと思います。ミラノ市は日本では唯一大阪市と姉妹都市提携を結んでいるわけですが、大阪に赴任されている総領事として、この両市の関係上もとても重要だと考えておられる点は？

**ロンバルディ** この姉妹都市提携はとても重要な意味を持っています。両市ともそれを理解しているからこそ、姉妹都市提携が結ばれた直後に、大阪府とロンバルディア州も提携を結んだのでしょう。さらに2016年は両市の姉妹都市提携35周年となるので、今からどちらの中も記念行事の企画が進んでいるはずです。

**小島** 両市の気心は通じ合っている...というところでしょうか。馬が合うのかも知れませんがね。

**ロンバルディ** ミラノ人と大阪人は特にそうかも

しません。歴史的な背景も似ている点が多いように思います。ミラノはドイツのフェデリコ・バルボロッサ皇帝に征服されたことがありますが、ミラノ人はそれに対し果敢に立ち向かい、独立を取り戻したという過去があります。大阪も400年前に争いの舞台になったと聞いております。その後市民の経済の力で「独立」を勝ち取った。ともに勇氣、気骨のある市民性だと言えるでしょう。

**関西学院大学と大阪**

**大学が都市に果たす役割**

**小島** 私たちは関西学院大学の出身で、大阪で仕事をしている同窓生のグループに所属しているんです。このHPの対談ページも同窓生として、大学で学んだ精神をいかに社会に役立たせるのか、あるいは大阪を関西学院大学の出身生がどうクリエイトしているのかを考えると、意図で発足したのもなんです。ここで少し大学をテーマにした話をしてもいいですか？

**ロンバルディ** もちろん。

**小島** 日本の大学生は世界で一番勉強をしないとと言われることがあります。イタリアは世界最古の大学・ボローニヤ大学を有する国ですが、学生さんの雰囲気はどんな感じでしょうか？

**ロンバルディ** イタリアの学生はまじめで勤勉です。イタリアの大学システムは世界に誇れるものだと思いますよ。まず国立大学の学費は安く、年間10万円程度ですね。授業のレベルも大変に高い。ただ問題があって、一クラスが多い場合45人くらいになるケースもあります。また懸命に勉強しなければ卒業できません。大体入学者の10パーセント程度の生徒しか卒業は出来ません。それでも「10パーセントも卒業できる」と言われるほどなんですけどね(笑)。

**小島** それはすごいですね！

**ロンバルディ** すごい」というのは、私の方の感

想でもありますよ。総領事館スタッフの子供にも、関西学院の中学部に通っている子がいるのですが：きつと勉強すれば、中学から大学卒業まで一貫教育を受けることができるというシステムには大いに驚きました。また大学に入ったあとも、多くの授業があるという点も驚きですね。イタリアでは自分で多くの本を読み、学ばなければならないので：自ら何を学ぶかを考え、

それに到達できなければ卒業できない：そんな世界なんです。そうすることで専門的なテーマだけでなく、より多くのことを自力で学び取ることが出来る、それがイタリアの大学です。

**小島** それは国公立のみのお話でしょうか？それともおのおのイタリアの大学は同じようなシステムなのではないか？

**ロンバルディ**

イ おおむねシステムは同じですね。ただ街の



規模によって先生方のレベルは違ってきます。自分の場合ももっとも近い先生は前年まで通産大臣であった人でしたし、ヨーロッパで著名な哲学の先生の授業も受けていました。

**小島** 私たちと同じような同窓会活動は、イタリアにもあるのでしょうか？

**ロンバルディ** イタリアにもあります。特に有名なのはミラノにある私学、ボッコーニ大学ですね。経済学の研究で有名なのですが、この同窓生は強い絆で結ばれています。また私の出身大学であるトリノ大学も同窓会がありますし、ローマ大学にもありますよ。概して、大学がしっかりしているところほど、しっかりした同窓会が組織されている。と言えるでしょう。分野ごとの、例えば法律、経済科学、芸術…そういった助け合いがあるという話がよく聞きますよ。

**小島** 分野を超えて、例えばビジネスの場面で、同じ大学だから…といった理由での助け合いといったことはあるのでしょうか？

**ロンバルディ** もちろん同じ大学出身だと知れば、助け合い…という場面はたくさんありますよ。弁護士士の先生が裁判の席で、相手の弁護士と出会うと、それが同じ大学だから助け合いということはありませんけどね(笑)。いずれにしても帰属意識があるということは大切だと思います。特に成功した人ほどそういう意識を強く持つのではないかと思いますか？「あの大学に行ったからこそ、今の自分がある」と思えるわけです…それは大学にとっても大変有益なことのはずです。小島さんもその典型ではないですか。関西学院の教育を受けて、このような人が世の役に立ったということは、胸を張って世代を超えて伝えていくべきです。そのためにも同窓会の機能というのは、大事ななところだと思います。

**グローバル化と独自の文化  
大阪人は誇りを持つべき**

**小島** 今、関西学院は大学の方針として、グローバル化の上で大きな機能を果たそうとしているところではあります。グローバル化には経済的な発展という面がありつつも、一方で様々な文化が融合するという面もあるように思います。そうすると地域独自の文化を曖昧にしてしまう…そんな場面も当然

出てきますよね。イタリアには強烈な独自の文化があるだけに、そういった面で葛藤があるように思いますが…。

**ロンバルディ** 非常に難しく、そして素晴らしい質問ですね。グローバル化という認識自体が、内容的に常に変化し続けているように思います。例えば：今から20年・50年前くらいまでは、世界のスタンダードは一つだという意識が強かったのではないのでしょうか？日本でも記憶にあるでしょう。かつてからの素晴らしい建築物があるのに、全て壊してしまつて、近代的な建築にしようという動きがあったはずですよ。同じことがイタリアでも起きていたんですよ。そうすることで、世界を一つのスタンダードにしようとして…そこで多くのものを失いかけた。ただ現代はそれにストップをかけて、かつてからのものを敬おう…という意識が強くなってきているように思います。私たちは歴史や伝統に誇りを持ち、先人の遺産、財産を大切にしなければいけないということを常に意識するべきでしょう。たまたま肝心なことは、他の国の人々にも、大事にしなければいけない歴史、伝統、先人の財産がある。ということを決して忘れてはいけないということですよ。それを忘れなければ、グローバル化を進めつつ、自国の文化を保つていけるのではないのでしょうか。

**小島** 素晴らしい！グローバル化が自分たちにとって大事なものを、お互いに見直してゆく…そんな良い機会になる可能性がある、ということですね。

**ロンバルディ** その通りです。自分たちが何者だったのかということ、常に意識にもっていることが、自分たちが将来的に何者になるのかということを考えてるうえでも、非常に大切なヒントとなるでしょう。

**小島** さて…そこで我々が愛する大阪ですが…。東京の「極集中」のなかで、本社機能が東京に行ってしまった企業も少なくありません。大阪は「元気がない」とよく言われています。イタリアにもこのような問題は起きています。イタリアでもこのように問題が起きています。イタリアでもこのように問題が起きています。イタリアでもこのように問題が起きています。

**ロンバルディ** イタリアでは事情は異なりますね。

まず最大の都市は勿論ローマです。人口も一番多く政治の中心でもある。公務員が沢山働いている街。一方ミラノはビジネスとファッションの中心。それ以上に文化の中心といえる象徴的なものを持っています。スカラ座ですね。北イタリアにはミラノ以外にも、様々な産業が発展している都市があります。例えばヴェネト州には、ヴェネツィアではなく、その周辺のもっと小さな町や村に企業群があつて、国際的な知名度を持つ製品を製造しています。

**小島** 地域が地域として独立している…どうしてそのようなことが起きるのでしょうか？国民性と言ってしまうには、あまりにも「強い力」を感じるのですが。

**ロンバルディ** そうですね…恐らく歴史でしょう。製造業だけではなく、イタリアの各都市・地域には、その文化の中心地があります。これはイタリアの統一が1861年までなされなかつたという歴史に主な原因があるのだと思います。長きにわたり、それぞれの地域にそれぞれの王がいて、各王が競い合うようにお金を使い、オペラを演奏させたり、美しい建築物をつくらせたりしていた…南イタリアのシチリアから、北イタリアのヴァッレ・ダオスタまでどの街に行っても、その街独自の文化の中心地がある…これはイタリアの特徴です。

**小島** 歴史的な要因ですか。日本でも都市指向だけではない、大事なところもあります。

**ロンバルディ** イタリアではこういった思いは今も生きています。例えば私の故郷トリノ。ペーリと周りを見渡したら「ミラノにはスカラ座が、ローマにも文化遺産はたくさんある…じゃあトリノにも何かを」ということ。そこで「他の都市に絶対にないもの」と考えたんですよ。結果できたのがエジプト博物館。世界で2番目に大きいんですよ。

**小島** 1番は？

**ロンバルディ** カイロです(笑)。でもトリノにそんな博物館を建てるなど、誰も思いつかないですよ。そんなことをやってのけるのがイタリアなんです。

**小島** (笑)…そんなトリノっ子の総領事から、ちょっと元気のない大阪にアドバイスをいただければ。  
**ロンバルディ** 元気がないだなんて！大阪は魅力的な街ですよ。喜んでエールを送りましょう(笑)。大阪は歴史の独自性、経済・政治の独自性…いずれもイタリアの諸都市に負けないものを持っている都市だと思います。近年では日本で一番高いビル・あべのハルカスも建てた…「このような強さを持っている。その文化・歴史を大切にしながら、前進してゆくことで、素晴らしい将来を導くことが出来るのではないのでしょうか。要は「元気がない」などと言わず、誇りを持ちつつ、それが大事なのだと思います。

**小島** ありがとございました。まずはミラノ万博のご成功、お祈りしております。

**ロンバルディ** あなたを含め、この対談の読者のみなさん！ミラノで待っていますよ！

**小島** ありがとうございます(笑)。

2014年11月4日

場所：在大阪イタリア総領事館にて収録



**小島 幸保**

- 生年月日1972年(昭和47年)7月7日
- 大阪女学院高校1988.4-1991.3
- 関西学院大学法学部政治学科1991.4-1995.3
- 最高裁判所司法研修所  
司法修習生(第52期)1998.4-2000.3
- 弁護士登録(大阪弁護士会)2000.4
- 小島法律事務所開設2006.4